

学びのアップデート

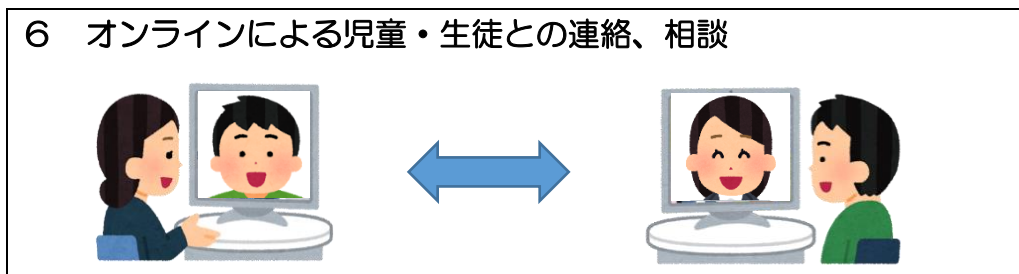
本号では、第1号で紹介した「今後のオンラインを活用した教育活動の例について」の中から、「オンラインによる児童・生徒との連絡、相談」(資料1)について、二つの学校の実践事例を紹介します。

6月の分散登校期間中の取組事例になりますが、「ポストコロナ」を見据えた新しい時代の学校教育を進める上で参考となりますので御活用ください。

資料1

今後のオンラインを活用した教育活動の例について

6 オンラインによる児童・生徒との連絡、相談



港区立麻布小学校の事例 「オンライン朝の会」

6月12日、港区立麻布小学校6年生2学級において、学年合同でオンラインを活用して初めて10分間の「朝の会」を行いました。この日の6年生は、分散登校期間中で自宅学習日でした。学校と家庭が同時双方向でつながることができ、教師と子供たちから笑顔があふれました。

オンライン朝の会を円滑に進めるための工夫

- ①「手を挙げる機能」を活用した意思表示
- ②「画面共有機能」を活用し、プレゼンテーションソフトウェアで作成したスライドを使っての情報提示
- ③「チャット機能」を活用した意見交流



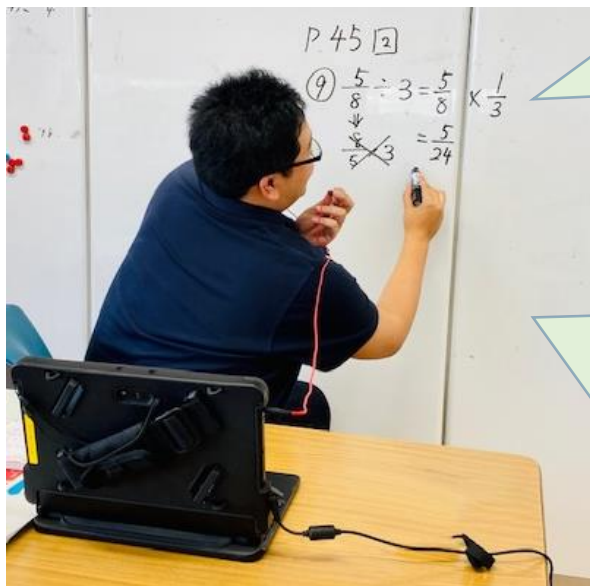
朝の会の様子

メディア活用プロジェクトチームを立ち上げ、オンライン教育を含めた教科指導等におけるICT利活用の促進を図っています。

ICTの活用が進んでいる学校では、コロナ禍でオンラインを活用し、朝の会や健康観察等を行い、つながること、情報共有することから取組を始めています。徐々に活用場面を広げていくことで、教員、子供たちにとって負担感なく、便利な道具として活用が促進していきます。

三鷹市立東台小学校の事例 「オンラインを活用した補習」

6月26日、放課後に6年生の教室でオンラインを活用した補習を行いました。授業中に学習内容が十分に理解できなかった児童が自主的に参加しました。丁寧に個々の分からなかったことに応じた指導を行うことで、児童は笑顔で意欲的に学習に取り組んでいました。



同時双方向に補習を行っている様子

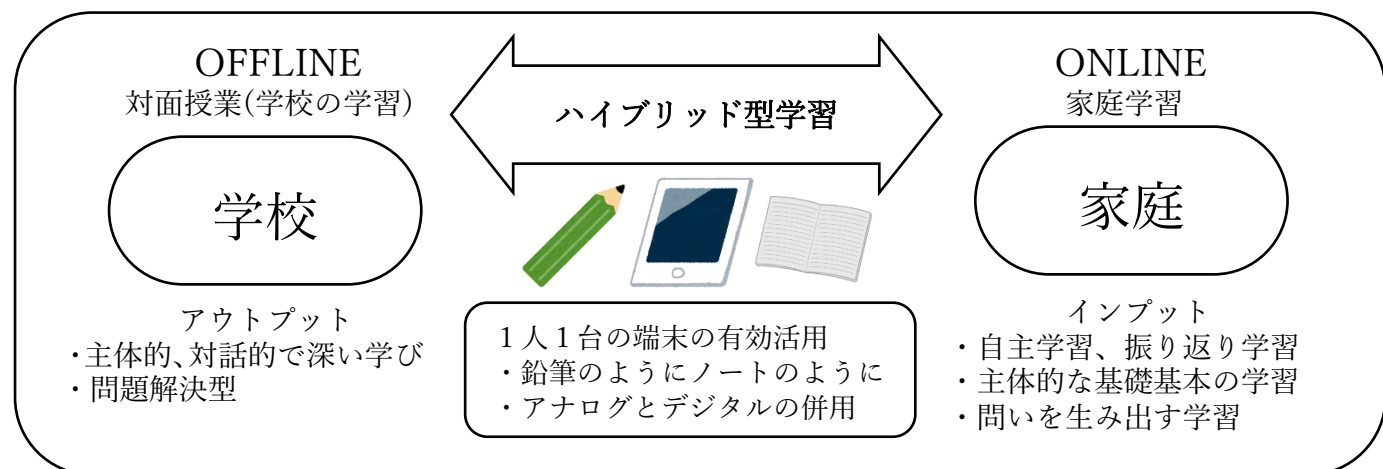
同時双方向型では、リアルタイムに励ましの声掛けができるよさがあり、児童の学習意欲につながっています。

対面学習では発信を苦手としている児童が、オンラインを活用した補習に自ら参加し、積極的に質問する姿が見られます。授業で分からなかったことを、放課後のオンラインを活用した補習において理解を深めることは、明日への学習意欲を生むことにもつながっています。

ハイブリッド型学習

三鷹市立東台小学校では、三鷹市教育委員会の教育課題研究として、「ハイブリッド型学習研究開発校」の指定を受けました。研究するに当たり、学校での日常の授業を「オフライン学習」、家庭での学習においてオンラインを活用した「オンライン学習」と捉えました。児童一人一台の端末を活用した、「オフライン学習」と「オンライン学習」が結び付く「ハイブリッド型学習」の在り方について、各学年の発達段階に応じた学習開発を行っています。

三鷹市立東台小学校のハイブリッド型学習のイメージ



子供たちの学ぶ意欲に応え、子供たちの力を最大限に伸ばすために、学校での学習とオンラインを活用した家庭学習を組み合わせたハイブリッド型学習を推進し、学びの質を向上させるとともに、学校教育における様々な課題につなげていくことが必要です。